

令和 5 年度愛知県立芸術大学音楽学部一般選抜  
試験内容及び試験曲

1. 専攻別実技試験

**作曲専攻 作曲コース**

- (1) 4声体による和声課題（バス課題、ソプラノ課題、バス・ソプラノ混合課題のいずれか1題が課せられます）。  
……………所要時間：3時間
  
- (2) 器楽曲作曲  
与えられたモチーフを用い、器楽曲を作曲してください。  
なお、長さ、形式、楽器編成は自由。  
……………所要時間：7時間。うち前半3時間（ピアノなし）／後半4時間（ピアノあり）
  
- (3) 口述試験（面接を含む）  
試験で書いた答案についての質疑応答。

**作曲専攻 音楽学コース**

- (1) 音楽学に関する基礎的試験（音楽学の学習に必要な理論的な基礎的能力を問う試験）。  
……………所要時間：論述2時間及び口述試問所要時間
  
- (2) 外国語（英、独、仏から1科目）。解釈の能力を問う試験。……………所要時間：1時間

## 声楽専攻（ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、テノール、バリトン、バス）

- 課題曲 1 曲と自由曲 1 曲を暗譜で演奏してください。

課題曲：次にあげられた課題選択曲のうち、必ず2つ以上のグループから、合計4曲を選び、曲目提出用紙に記入し入学願書の提出書類とともに提出してください。うち1曲を当日指定します。原則として、曲目提出後の変更は認めません。

### a. 『イタリア歌曲』グループ

- |    |                             |                          |                   |
|----|-----------------------------|--------------------------|-------------------|
| 1. | G. Bononcini                | Per la gloria d'adorarvi | (D, Es, F, G)     |
| 2. | A. Cesti                    | Intorno all'idol mio     | (c, d, e, f)      |
| 3. | F. Durante                  | Vergin, tutto amor       | (h, c, d)         |
| 4. | F. Gasparini                | Lasciar d'amarti         | (d, e, g, f)      |
| 5. | T. Giordani [伝 G. Giordani] | Caro mio ben             | (C, Des, Es, F)   |
| 6. | C. W. Gluck                 | O del mio dolce ardor    | (c, d, e, fis, g) |

※下記注意事項を参照のこと

- |     |                        |                       |               |
|-----|------------------------|-----------------------|---------------|
| 7.  | L. Mancina [伝 S. Rosa] | Star vicino           | (E, G, A, B)  |
| 8.  | A. Scarlatti           | Già il sole dal Gange | (F, G, As, B) |
| 9.  | A. Scarlatti           | Se Florindo è fedele  | (G, As, B)    |
| 10. | A. Scarlatti           | Se tu della mia morte | (e, f, g)     |

### b. 『ドイツ歌曲』グループ

- |     |                          |                          |                     |
|-----|--------------------------|--------------------------|---------------------|
| 11. | J. Brahms                | Dein blaues Auge         | (D, Es)             |
| 12. | F. Mendelssohn Bartholdy | Auf Flügeln des Gesanges | (F, G, As) 第1節及び第3節 |
| 13. | F. Schubert              | An die Musik             | (B, C, D, E)        |
| 14. | F. Schubert              | Seligkeit                | (C, D, E) 第1節及び第2節  |
| 15. | R. Schumann              | Du bist wie eine Blume   | (E, Ges, As)        |

### c. 『日本歌曲』グループ

- |     |       |             |                 |
|-----|-------|-------------|-----------------|
| 16. | 小松 耕輔 | 母           | (F, G, As, A)   |
| 17. | 瀧 廉太郎 | 荒城の月        | (c, d) 第1節及び第2節 |
| 18. | 中田 喜直 | むこうむこう      | (F)             |
| 19. | 信時 潔  | 北秋の（「沙羅」より） | (Des, D)        |
| 20. | 山田 耕筈 | かやの木山の      | (C, D)          |

### 【注意事項】

- 曲目に記入してある各調の楽譜は、本学に用意してあります。  
大文字は長調、小文字は短調を示します。
- 『イタリア歌曲』については、基本的に全音楽譜出版社版「イタリア歌曲集」（畑中良輔 編）を使用します。  
6. O del mio dolce ardor は全音楽譜出版社「イタリア歌曲集1」31Aを演奏してください。
- 時間の都合により、演奏をカットすることがあります。

（次ページにつづく）

自由曲：課題曲として提出した4曲以外のもの1曲を提出。(前掲の課題選択曲の中から提出する事も可)原則として、曲目提出後の変更は認めません。

所要時間3分以上の曲については曲の途中でカットします。

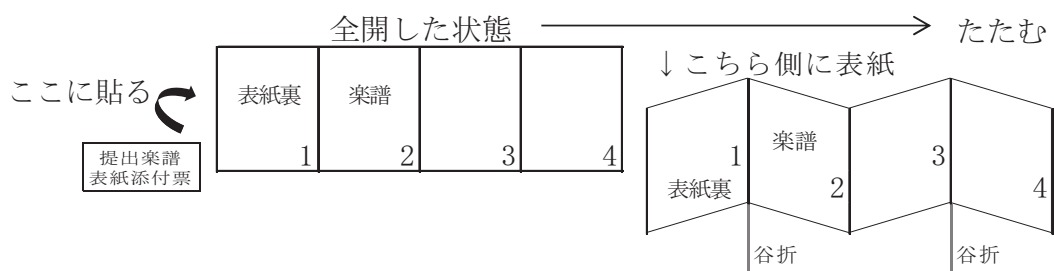
歌曲(一般に歌曲として扱われている古典アリアを含む)の場合、いずれの調で演奏しても良いが、オペラ、オラトリオのアリアについては原調とします。歌詞は原則として原語とします。

- F. Wüllner : Chorübungen I No. 37 a) ~No. 77 d) の中から1曲を試験の際に指定します。  
大阪開成館『全訳コールユーブングエン』(信時潔 訳)を使用します。

提出楽譜についての注意：

- 1) 自由曲伴奏楽譜は、各自必ず提出してください。
- 2) 課題曲においても本学に用意してある調以外の調で歌う場合は、自分の選んだ調の伴奏楽譜を必ず「入学願書」に添えて提出してください。
- 3) 提出楽譜は、1頁をすべてA4の大きさに統一し、**屏風状**に作成してください。  
提出楽譜には、伴奏部に添えて必ず歌唱部と歌詞を記入してください。  
手書きの場合は、丁寧かつ正確に清書してください。(鉛筆書きの場合は、鮮明にコピーしたものを提出してください。)
- 4) 提出楽譜には、1曲ごとにA4の表紙を付け、必要事項(氏名、声種も忘れずに)を記入した「提出楽譜表紙添付票」を表紙左上隅に貼付し、2ページ以降が楽譜となるようにしてください。
- 5) 「提出楽譜表紙添付票」が不足する場合は、コピーして使用してください。

以上の規定に反したものは、原則として受け付けません。



## 器楽専攻 ピアノコース

### 課題曲：

- ① J. S. Bach: 平均律クラヴィーア曲集第1巻、または第2巻より任意の1曲
- ② F. Chopin: 練習曲集 Op.10 または Op. 25 より任意の1曲
- ③ L. v. Beethoven: ピアノ・ソナタより任意の1曲（全楽章）
- ④ 1950年までに作曲された任意のピアノ独奏作品（複数曲も可）※

※出版された作品に限ります。

※①②③で選択した曲と内部奏法等の特殊奏法を用いた作品を除きます。

※ソナタや組曲からの楽章の抜粋は可。変奏曲の抜粋は認めません。

### 第1次試験

第1試験室で①と②を演奏してください。①と②の演奏順は自由です。ただし、①はプレリュードから演奏してください。その後、第2試験室へ移動して③のソナタの第2楽章以降を演奏してください。ただし、Op. 27-1、Op. 27-2、Op. 101、Op. 109を選択した場合は、第3楽章以降を演奏してください。

### 第2次試験

③のソナタの第1楽章を演奏してください。ただし、Op. 27-1、Op. 27-2、Op. 101、Op. 109を選択した場合は、第1楽章と第2楽章を演奏してください。

その後、④を演奏してください。

### 第1・2次試験 共通

- ・全曲暗譜で演奏してください。
- ・繰り返しなしで演奏してください。（ただし24小節以内の繰り返しは自由）
- ・実技試験進行の都合により演奏を途中でカット、または演奏箇所を指定する場合があります。
- ・曲目提出用紙は、入学願書の提出書類とともに提出してください。原則として、曲目提出後の変更は認めません。

## 器楽専攻 弦楽器コース

### 器楽専攻弦楽器コース共通事項

- ・ 繰り返しなし、暗譜で演奏してください。
- ・ 課題曲、自由曲ともに、伴奏なしで演奏してください。
- ・ 時間の都合により演奏をカットする場合があります。

器楽専攻弦楽器コース提出用紙について（入学願書の提出書類とともに提出してください。）

- ・ 提出用紙に、課題曲 b)（コントラバスとハープを除く。）及び自由曲の作曲者名、曲名を **欧文**で記入してください。
- ・ ヴァイオリン受験者は、第2志望（ヴィオラ）の有無にも○を付けてください。
- ・ コントラバス受験者は、楽器借用希望の有無に○を付けてください。
- ・ 原則として、曲目提出後の変更は認めません。

## ヴァイオリン

### （1）課題曲

#### a) Carl Flesch: Scale System より A-dur

No. 5 全部、No. 6 最初の4小節、No. 7 最初の4小節、No. 8 最初の4小節

リズムと No. 5 のスラーは、C-dur に準じます。重音のスラーは4分音符単位とします。

#### b) 次の4つの練習曲集、もしくは同等以上の練習曲集より任意の1曲を選択し演奏してください。

J. Dont: 24 Études et Caprices Op. 35

P. Rode: 24 Caprices

P. Gaviniès: 24 Etüden (Matinées)

N. Paganini: 24 Capricci Op. 1

### （2）自由曲

古典派以降の任意のヴァイオリン協奏曲の第1楽章、カデンツァを含みます。

## ヴィオラ

### （1）課題曲

#### a) Carl Flesch: Scale System より 任意の調性

No. 5 全部、No. 6 最初の4小節、No. 7 最初の4小節、No. 8 最初の4小節

リズムと No. 5 のスラーは、C-dur に準じます。重音のスラーは4分音符単位とします。

#### b) B. Campagnoli: 41 Caprices もしくは J. Palaschko: 20 Studies Op. 36 より任意の1曲

### （2）自由曲

古典派の任意のヴィオラ協奏曲の第1楽章、カデンツァを含みます。

## チェロ

### (1) 課題曲

#### a) J. Loeb: Gammes et arpèges より Es-dur

4 オクターブの音階、4 オクターブの分散3度を、4 つずつのスラーで。

4 オクターブのアルペジオを、3 つずつのスラーで。

2 オクターブの3度重音、2 オクターブの6度重音を、スラー無しでレガートで。

#### b) J. L. Duport: The 21 Famous Exercises (Etudes) より任意の1曲

### (2) 自由曲

古典派以降のチェロ協奏曲(カデンツァを含む)もしくは古典派のチェロソナタより任意の楽章。

## コントラバス

(1) (2) 共にオーケストラチューニングで演奏してください。

### (1) 課題曲

#### a) 音階 C-dur 2 オクターブ 譜例参照

The image shows a musical score for double bass, exercise a). It consists of five staves of music. The first staff is in C major, 2/4 time, and shows a scale starting on C2, moving up to C4, then down to C2. The second staff shows a scale starting on C2, moving up to C4, then down to C2, with a 'v' marking above the first measure. The third staff shows a scale starting on C2, moving up to C4, then down to C2, with a 'v' marking above the first measure. The fourth staff shows a scale starting on C2, moving up to C4, then down to C2, with a 'v' marking above the first measure. The fifth staff shows a scale starting on C2, moving up to C4, then down to C2, with a 'v' marking above the first measure. The score includes various markings such as 'v' and 'sva'.

#### b) F. Simandl: 30 Etudes for the String Bass より No. 20 Moderato assai, in F major (6/8)

### (2) 任意の自由曲

## ハープ

ハープ受験者は、本学で用意した楽器を使用してください。楽器の持ち込みは不可です。

### (1) 課題曲

#### R. N. C. Bochsa: Célèbres Etudes Cinquante Etudes Op. 34 より No. 5 及び No. 10

### (2) 任意の自由曲

## 器楽専攻 管打楽器コース

### 器楽専攻管打楽器コース共通事項

- ・課題曲等について、暗譜の要否の記載がない場合は、暗譜の必要はありません。
- ・第2次試験の伴奏者については、本学で用意します。
- ・令和5年度一般選抜では、第2次試験の初見はなくなりました。

### フルート

※第1次試験及び第2次試験で選択した曲の番号及びアルファベットは、受験票および受験者写真票の「区分」欄に、楽器種別とともに記入してください。(例：フルート①A)  
原則として、曲目提出後の変更は認めません。

#### 第1次試験

##### (1) 音階

長調と短調ひとつずつを当日指定します。暗譜で演奏してください。

(和声短音階または旋律短音階のどちらかを演奏してください。)

##### (2) 課題曲

a) 下記の5曲より当日指定します。(繰り返しなし、版の指定はしません)

J. Andersen: 24 Studies Op. 21 より No. 3、4、10、13、24

b) 下記の5曲より任意の1曲を選択し、演奏してください。①以外の曲は、版の指定はしません。

① E. Bozza: Image (Leduc 版) 冒頭～2ページ3段目 Lento 後のフェルマータまで

② A. Honegger: Danse de la Chèvre 冒頭～48小節目まで

③ J. Ibert: Piece pour Flute Seule 冒頭～59小節1拍目まで

④ S. Karg-Elert: 30 Caprices Op. 107 より Chaconne 冒頭～Var. XIII 最後まで

⑤ S. Karg-Elert: Sonata Appassionata fis-moll Op. 140 冒頭～51小節目まで

#### 第2次試験

下記の2曲より任意の1曲を選択し、演奏してください。

Ⓐ W. A. Mozart: Concerto in G major K. 313 より第1、第2楽章

Ⓑ W. A. Mozart: Concerto in D major K. 314 より第1、第2楽章

演奏箇所は当日指定します。(共にカデンツァなし、版の指定はしません)

## オーボエ

### 第1次試験

(1) 音階

長調と短調ひとつずつを当日指定します。暗譜で演奏してください。

(和声短音階または旋律短音階のどちらかを演奏してください。)

(2) 課題曲

W. Ferling: 48 Etudes より (版の指定はしません)

No. 21~30 の中から当日指定します。

### 第2次試験

F. J. Haydn: Concerto (Breitkopf 版) より 第1楽章

## クラリネット

### 第1次試験

(1) 音階

Rolf Eichler: Scales for Clarinet (国立音楽大学教育出版部) 全部の音階中、No. 1 の中から当日指定します。ただし、暗譜で演奏してください。

任意のアーティキュレーションで演奏してください。

(2) 課題曲

C. Rose: 32 Etudes より (Leduc 版)

No. 15~No. 28 の中から当日指定します (繰り返しなしで演奏してください)。

### 第2次試験

F. Krommer: Konzert für Klarinette und Orchester Es-dur Op. 36 より (版の指定はしません)

第1、第2楽章

## ファゴット (バスーン)

### 第1次試験

(1) 音階

長調と短調ひとつずつを当日指定します。暗譜で演奏してください。

(和声短音階または旋律短音階のどちらかを演奏してください。)

(2) 課題曲

Julius Weissenborn: 50 Bassoon Studies Op. 8 No. 2 より (Carl Fischer 版)

No. 1~No. 14 の中から当日指定します (繰り返しなしで演奏してください)。

### 第2次試験

A. Vivaldi: Concerto in D minor Op. 45- 7 (F. VIII-5) (International Music Company 版) より

第2楽章 (♩=ca. 66) 及び第3楽章 (♩=ca. 108)



## サクソフォーン

### 第1次試験

#### (1) 音階

サクソフォーンのためのトレーニングブック 須川展也 編 (音楽之友社) より

①を全調より、当日指定します。

テンポは ♩ = 100 とします。

アーティキュレーションは、スラーおよびスタッカートとし、当日指定します。

暗譜で演奏してください。

#### (2) 課題曲

W. Ferling: 48 Études (Leduc 版) より

No. 5、6、13、14、19、20、21、22、29、30、31、32 の中から当日指定します。

### 第2次試験

A. Glazounov: Concerto en Mi ♭ Op. 109 (Leduc 版) より 冒頭から練習番号 16 まで

## ホルン

### 第1次試験

#### (1) 音階

長調と短調ひとつずつを当日指定します。

2 オクターブを任意の形で、暗譜で演奏してください。

#### (2) 課題曲

C. Kopprasch: 60 Selected Studies for French Horn, Book I (版の指定はしません)

No. 13、25、42、45 より 2 曲当日指定します。

繰り返しなしで演奏してください。

ただし、No. 45 の D. S. は演奏してください。

Low F、B ♭ のフルダブルホルンを使用してください。

### 第2次試験

W. A. Mozart: Horn Concerto No. 3 K. 447 (Bärenreiter 版)

第1楽章 (カデンツァなし)

(注) ディスカントホルン (ハイ F 管等) を使用しないでください。

## トランペット

### 第1次試験

(1) 音階

J. B. Arban: Complete Grand Method (ISM Collection 全音楽譜出版社)

65～81 ページの4、19、25、31、38、42、43、44、47、53、59、65、70～81の中より当日指定します。

(2) 課題曲

a) C. Colin: Advanced Lip Flexibilities Vol. 1 (CHARLES COLIN) より 17 番を

暗譜で演奏してください。

b) Arban: 14 Characteristic Etudes (ISE Collection) より No. 1、2、3の中から当日指定します。

### 第2次試験

C. Saint-Saëns: Fantasia en mi bémol (Leduc 版)

## トロンボーン

### 第1次試験

(1) 音階

長調と短調ひとつずつを当日指定します。

2 オクターブを任意の形で、暗譜で演奏してください。

(2) 課題曲

a) C. Kopprasch: 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社) より

No. 15、26 は必須課題。

No. 13、14、18、20、23、27 より当日指定します。

b) J. Rochut: Melodious Etudes for Trombone Book1 (CARL FISCHER 版) より

No. 9、11、25 より当日指定します。

a)、b)とも繰り返しなしで演奏してください。

### 第2次試験

E. Sachse: Concertino in B $\flat$  major for Trombone and Piano

(INTERNATIONAL MUSIC COMPANY 版)

演奏箇所は当日指定します。

## バストロンボーン

### 第1次試験

(1) 音階

長調と短調ひとつずつを当日指定します。

2オクターブを任意の形で、暗譜で演奏してください。

(2) 課題曲

a) C. Kopprasch: 60 Selected Studies for Trombone (全音楽譜出版社) より

No. (19)、26 は必須課題。

No. (7)、(8)、(14)、18、20、21 より当日指定します。

繰り返しなしで演奏してください。

※注 ( ) の課題は1オクターブ下げて演奏してください。

b) A. Ostrander: Melodious Etudes for Bass Trombone (CARL FISCHER 版) より

No. 9、10、15 より当日指定します。

### 第2次試験

E. Sachse: Konzert für Posaune und Klavier in F dur (Zimmermann 版)

演奏箇所は当日指定します。

## ユーフォニアム

### 第1次試験

(1) 音階

長調と短調ひとつずつを当日指定します。

2オクターブを任意の形で、暗譜で演奏してください。

(2) 課題曲

a) J. Rochut: Melodious Etudes for Trombone (C. Fischer 版) Book 1 より

No. 5、8、10、16、18、20 (新版を使用してください)

b) C. Kopprasch: 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社) より No. 14、17、23、24、27、32

a)、b) より各1曲を当日指定します (繰り返しなしで演奏してください)。

### 第2次試験

A. Capuzzi: Andante and Rondo (from Concerto for D. Bass) (Hinrichsen 版 1474)

## チューバ

第1次試験、第2次試験ともC管かB♭管を使用してください。

### 第1次試験

#### (1) 音階

長調と短調ひとつずつを当日指定します。

2オクターブを任意の形で、暗譜で演奏してください。

#### (2) 課題曲

C. Kopprasch: 60 Selected Studies for B♭ Tuba

(Robert King Music Company 版 Music for Brass No. 278) より

No. 15 は必須課題。

No. 6、7、13、18、19、21、26 より当日指定します。

### 第2次試験

J. S. Bach / William J. Bell 編曲: Air and Bourree (C. Fischer 版 No. W1647)

## 打楽器 (スネアドラム)

※スネアドラムおよびスタンドは各自持参し、マリンバおよびティンパニは本学の楽器を使用してください。演奏を途中でカットすることがあります。

### 第1次試験

#### ① All-American Drummer (Ludwig Masters 版) より

Wilcoxon's 132<sup>nd</sup>、133<sup>rd</sup>、134<sup>th</sup>、135<sup>th</sup>、136<sup>th</sup>、137<sup>th</sup>、138<sup>th</sup> の中から当日指定します。

#### ② 深町 浩司: 新しい打楽器メソッド (スタイルノート社) より 124 ページから

126 ページの「実践的なフレーズトレーニング1」を、ティンパニで演奏してください。

(フェルトマレットを使用、4分音符=ca. 72、mf) 演奏箇所は当日指定します。

### 第2次試験

#### ① オーケストラスタディ (ティンパニ、ピアノ伴奏付き)

W. A. Mozart: Le nozze di Figaro K. 492 より Overture (序曲)

フランネルマレットで演奏してください。

#### ② Heinrich Knauer: Kleine Trommel Schule (HOFMEISTER 版) より 25 番

4分音符=ca. 72 で演奏してください。

#### ③ マリンバで音階 [楽譜A] を、暗譜で演奏してください。

すべての長調、短調の中から当日指定します。

2オクターブ、往復、短調は1回目と声短音階、2回目旋律短音階

[楽譜A]

♩=96



## 打楽器（マリンバ）

※スネアドラムおよびスタンドは各自持参し、マリンバは本学の楽器を使用してください。  
演奏を途中でカットすることがあります。

### 第1次試験

- ① マリンバで音階〔楽譜⑥〕を、暗譜で演奏してください。  
すべての長調、短調の中から当日指定します。  
3オクターブ、往復、短調は1回目と声短音階、2回目旋律短音階

#### 〔楽譜⑥〕

♩ = 96

- ② J. S. Bach: Sonata No. 1 in G minor for Violin solo BWV 1001 より

Siciliana と Presto（版の指定はしません）

原調のまま、実音又は1オクターブ下げて、2本マレットもしくは4本マレットで演奏してください。また、繰り返しなしで、暗譜で演奏してください。

### 第2次試験

- ① Gordon Stout: Two Mexican Dances for Marimba より 1番（版の指定はしません）  
暗譜で演奏してください。
- ② スネアドラムで〔楽譜⑦〕を演奏してください。

#### 〔楽譜⑦〕

5 str. 9 str. 9 str. 11 str. 11 str. Single Paradiddle Double Ratamacue

R R L L R R L L R R L R L 3 R 3

5 10 str. 10 str. Single Stroke Roll Flamacue

R L L R L R L L R L R L R L R L R L R L R

8 = 60 Closed Roll

*p* *ff* *p* 3 *tr*

## 2. 副科試験

### ■ピアノ（器楽専攻ピアノコースを除く）

J. S. Bach: Inventionen      BWV772～786

J. S. Bach: Sinfonien      BWV787～801

上記より任意の1曲を選択し、暗譜で演奏してください。（繰り返しなし）

時間の都合により、演奏をカットする場合があります。

副科試験の曲目の提出用紙はありません。

### ■新曲視唱

歌詞をともなわない初見視唱1題

### ■聴音

#### ○作曲専攻作曲コース

（1）単旋律課題1題

（2）2声の旋律課題1題（上声は高音部記号により大譜表の上段に、下声は低音部記号により大譜表の下段に記譜します。）

（3）4声の和声課題1題（Sop. 及び Alt. は高音部記号により大譜表の上段に、Ten. 及び Bass は低音部記号により大譜表の下段に記譜します。）

#### ○作曲専攻音楽学コース、声楽専攻、器楽専攻

（1）単旋律課題1題

（2）4声の和声課題1題（Sop. 及び Alt. は高音部記号により大譜表の上段に、Ten. 及び Bass は低音部記号により大譜表の下段に記譜します。）

### ■楽典（作曲専攻作曲コースを除く）

音楽の学習に必要な基礎知識一般（所要時間：1時間）

令和5年度 愛知県立芸術大学音楽学部一般選抜試験問題

I 和声課題 (作曲専攻作曲コース)

次のソプラノ課題を4声体で実施しなさい。

**Allegro moderato**

5  
10  
15  
20

*p*  
*mf* *mp* *f* *dim.*  
*mf* *sfz* *sub. p* *cresc. - -*  
*mf* *ff* *sfz*  
*meno f* *mf* *morendo*

*rit.* *a tempo* *rit.*

II 器楽曲作曲 (作曲専攻作曲コース)

次の2つのモチーフのうち、どちらかを用いて器楽曲を作曲しなさい。  
テンポ、強弱、音域、形式、および楽器編成は自由。

☆注

☆注1 最後の音符の長さは自由。

### Ⅲ 音楽学に関する基礎的試験（作曲専攻音楽学コース）

#### 【試験問題】

##### 問題1

別紙は、ある論文集を読んで感じ考えたことを書きあらわした文章である。別紙の文章を読んで、次の問いに答えてください。

筆者の問いかけ（\_\_\_\_\_線）に対して、あなたはどのように考えますか。論じてください。  
（文字数の制限はありません。）

出典 毛利 嘉孝「豊饒な音楽文化を取り戻すために：『ポピュラー音楽再考』書評」  
『週刊読書人』2020年6月19日号 [3344号]

##### 問題2

「消えつつある音（あるいは、消えた音）」を任意に選び、それを明示したうえで、その音について、感じ考えたことを論じてください。

（文字数の制限はありません。）

※本学管理棟3階 入試課において閲覧できます。

閲覧時間 午前9時から午後5時まで

ただし、土・日曜日、祝日等の休業日は除きます。

#### 【出題の意図】

学部において音楽学研究をおこなうにあたって必要となる読解力、および論述力を備えているかを問う。

### Ⅳ 外国語（作曲専攻音楽学コース）

##### 問題1

次の文章は、ある作曲家について書かれたものです。全文を訳してください。

出典 *Grove Music Online*.

##### 問題2

全文を訳してください。

出典 J. Peter Burkholder, Donald J. Grout and Claude V. Palisca. *A History of Western Music, Seventh Edition*. New York: W. W. Norton & Company, 2006.

#### 【出題の意図】

学部において音楽学研究をおこなうにあたって必要となる外国語の能力を備えているかを問う。

※外国語の試験問題は、本学管理棟3階入試課において閲覧できます。

閲覧時間 午前9時から午後5時まで

ただし、土・日曜日、祝日等の休業日は除きます。



V 楽典（作曲専攻音楽学コース、声楽専攻、器楽専攻）

【試験問題】

別紙の譜例（F・ショパン作曲ピアノ・ソナタ第3番口短調 Op. 58 第1楽章の冒頭部分）を見て、以下の設問に答えなさい。

1. (1)～(10)に示されている音程を答えなさい（例：長3度、等。なお音程はすべて単音程にして考えなさい）。
2. (1)～(10)の音程のうち、転回音程の関係にあたるものをすべて答えなさい（□と△というように、番号で答えること）。
3. (1)～(10)の音程のうち、異名同音程の関係にあたるものをすべて答えなさい（□と△というように、番号で答えること）。
4. A～Gに示されている各和音の種類（例：長三和音、等）とその転回形（基本形、第1転回形、等）を答えなさい。
5. 譜例について説明した以下の文章の下線部分に当てはまる言葉を、下枠の選択肢から選び答えなさい。但し、同じ番号を重複して使用しないこと。

このピアノ・ソナタは、冒頭に不完全小節が配置されるいわゆるアで始まる。調号のとおり、第1主題の提示が主調のイ調で始まり、6小節目でウ調に転じ、8小節目でエ調のオ和音で半終止する。その後、第1主題がエ調で確保され、冒頭の音形を用いた経過的部分に入り、転調を重ねてゆく。

このソナタの作曲家、フレデリック・ショパンは、1810年、ポーランドの首都ワルシャワの近郊に生まれ、3曲のピアノ・ソナタの他、多くのピアノ曲を遺した。同年、ドイツのツヴィッカウに生まれたカは、多くのピアノ小品、歌曲の他、室内楽、交響曲も遺した。1809年には、ハンブルクでキが生まれた。キは早熟で、17歳の時にシェイクスピアの戯曲を題材にしたクを作曲している。1811年には、当時のハンガリー領の農村で、ケが生まれた。ケは古今無双の偉大なピアニストであり、多くのピアノ曲を遺したばかりでなく、コを創始したことで知られている。

1. ダウンビート
2. アウフタクト
3. 平行
4. 同主
5. ロ短
6. イ長
7. ヘ長
8. ホ短
9. 嬰ハ短
10. 嬰ヘ短
11. 属
12. 減三
13. 増三
14. ジョン・ケージ
15. ラフマニノフ
16. シューマン
17. シベリウス
18. メンデルスゾーン
19. リスト
20. パガニーニ
21. 真夏の夜の夢「序曲」
22. ピアノ協奏曲
23. 交響詩

6. 次に指示される調を日本語で書きなさい。但し、短調は和声短音階とする。
  - (1) Aの和音が含まれる調を全て答えなさい。
  - (2) Fの和音が含まれる調を全て答えなさい。
7. 譜例内の下記の楽語の意味を書きなさい。
  - (1) Allegro maestoso
  - (2) *ten.*
8. 譜例内の下記の楽語を省略せずにイタリア語で書きなさい。
  - (1) *ff*
  - (2) *cresc.*
9. イの部分で減5度高く、調号を用いずに書きなさい。なお、拍子記号、強弱、アーティキュレーションは書かなくて良い。
10. □の部分の一番高いパートを階名で歌うとしたら、どれが適切であるか、以下の選択肢から選びなさい。
  - (1) シ・ラ・ソ・ファ・ミ・ミ・レ・ド・レ
  - (2) レ・ド・シ・ラ・ソ・ソ・ファ・ミ・ファ
  - (3) ド・シ・ラ・ソ・ファ・ファ・ミ・レ・ミ
  - (4) ソ・ファ・ミ・レ・ド・ド・シ・ラ・シ
11. Gの和音を下属和音とする調の属調の上主音を導音とする短調の和声短音階の上行形を、主音から主音まで調号を用いずにソプラノ譜表上に全音符で書きなさい。

譜例

**Allegro maestoso**

The musical score is for a piano piece in 3/4 time, marked **Allegro maestoso**. It consists of ten measures, with annotations (1) through (10) and sections A through G. The score is written for both the right and left hands.

- Measure 1:** Starts with a forte (*f*) dynamic. Annotation (1) points to the first chord in the right hand.
- Measure 2:** Continues the first system. Annotation (2) points to the first chord in the left hand.
- Measure 3:** Continues the first system. Annotation (3) points to the first chord in the right hand.
- Measure 4:** Continues the first system. Annotation (3) also points to the first chord in the left hand. Section **A** is indicated by a dashed box around the first two chords in the right hand.
- Measure 5:** Continues the first system. Section **B** is indicated by a dashed box around the first two chords in the left hand.
- Measure 6:** Continues the first system. Section **C** is indicated by a dashed box around the first two chords in the right hand.
- Measure 7:** Continues the first system. Section **D** is indicated by a dashed box around the first two chords in the left hand. Dynamics change to *ff* and then *f*.
- Measure 8:** Continues the first system. Dynamics change to *fz* and then *p*.
- Measure 9:** Continues the first system. Section **E** is indicated by a dashed box around the first two chords in the right hand.
- Measure 10:** Continues the first system. Section **F** is indicated by a dashed box around the first two chords in the left hand. Dynamics change to *ten.* (tenuissimo).
- Measure 11:** Continues the first system. Section **G** is indicated by a dashed box around the first two chords in the right hand. Dynamics change to *cresc.* (crescendo).
- Measure 12:** Continues the first system. Section **G** is indicated by a dashed box around the first two chords in the left hand. Dynamics change to *f*.
- Measure 13:** Continues the first system. Section **G** is indicated by a dashed box around the first two chords in the right hand. Dynamics change to *f*.
- Measure 14:** Continues the first system. Section **G** is indicated by a dashed box around the first two chords in the left hand. Dynamics change to *f*.
- Measure 15:** Continues the first system. Section **G** is indicated by a dashed box around the first two chords in the right hand. Dynamics change to *f*.
- Measure 16:** Continues the first system. Section **G** is indicated by a dashed box around the first two chords in the left hand. Dynamics change to *f*.

【解答】

1. (1) 完全4度 (2) 減5度 (3) 短7度 (4) 完全5度  
 (5) 短2度 (6) 減4度 (7) 長6度 (8) 増4度  
 (9) 増1度 (10) 減8度

2. (1)と(4)、(2)と(8)、(9)と(10)

3. (2)と(8)、(5)と(9)

和音の種類	転回形	和音の種類	転回形
A <u>短三和音</u>	<u>第2転回形</u>	E <u>属七の和音</u>	<u>第3転回形</u>
B <u>減五短七の(導七の も可)和音</u>	<u>第3転回形</u>	F <u>長三和音</u>	<u>基本形</u>
C <u>減七の和音</u>	<u>第2転回形</u>	G <u>長三和音</u>	<u>第1転回形</u>
D <u>属七の和音</u>	<u>基本形</u>		

5. (ア) 2 (イ) 5 (ウ) 10 (エ) 8 (オ) 11  
 (カ) 16 (キ) 18 (ク) 21 (ケ) 19 (コ) 23

6. (1) ホ短調 口短調 二長調 八長調 ト長調

(2) ヘ長調 八長調 変口長調 変口短調 イ短調

7. (1) 堂々と快速に (2) 音の長さを十分に保って

8. (1) forzando (forzato も可) (2) crescendo

9.



10. (3)

11.



## VI 聴音（旋律）

## ○作曲専攻作曲コース、器楽専攻ピアノコース

主音及び主和音を与える。小節数、拍子、調性の指示は有り。テンポの指示は無し。20秒間隔で、通奏1回の後、4小節ごとに4回の演奏を行う。4回目は次の4小節を続けて演奏し、最後に通奏を1回行う。演奏終了後1分間の時間を与える。

旋律

○作曲専攻音楽学コース、声楽専攻、器楽専攻弦楽器コース・管打楽器コース

主音及び主和音を与える。小節数、拍子、調性の指示は有り。テンポの指示は無し。20秒間隔で、通奏1回の後、4小節ごとに4回の演奏を行う。4回目は次の4小節を続けて演奏し、最後に通奏を1回行う。演奏終了後1分間の時間を与える。

旋律



## VII 聴音（2声）（作曲専攻作曲コース）

主音及び主和音を与える。小節数、拍子、調性の指示は有り。テンポの指示は無し。  
20秒間隔で、通奏7回の演奏を行う。演奏終了後1分間の時間を与える。

2声

## VIII 聴音（4声）

○作曲専攻作曲コース、器楽専攻ピアノコース

最初に主音を与える。小節数、拍子、調性の指示は有り。テンポの指示は無し。20秒間隔で  
通奏7回の演奏を行う。演奏終了後1分間の時間を与える。

4声

○作曲専攻音楽学コース、声楽専攻、器楽専攻弦楽器コース・管打楽器コース

最初に主音を与える。小節数、拍子、調性の指示は有り。テンポの指示は無し。20秒間隔で、通奏7回の演奏を行う。演奏終了後1分間の時間を与える。

4声

Ⅸ 新曲視唱

○作曲専攻作曲コース、器楽専攻ピアノコース

予見時間は1分30秒。主和音及び、開始音を与える。

Andantino

○作曲専攻音楽学コース、声楽専攻、器楽専攻弦楽器コース・管打楽器コース

予見時間は1分30秒。主和音及び、開始音を与える。

**Moderato**

The musical score is written in treble clef, G major (one sharp), and 6/8 time. It consists of four staves of music. The first staff begins with a mezzo-piano (*mp*) dynamic. The second staff shows dynamics of *mp* and *f*. The third staff includes a crescendo leading to a piano (*p*) dynamic, followed by a *cresc.* marking. The fourth staff starts with *poco rit.* and ends with *a tempo*, featuring dynamics of *f* and *mp*.